

第1分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題「社会に開かれた学校づくりを目指す教育課程の在り方」

～学校と地域が一体となった教育活動から見えてきた課題の整理を通して～

東諸県支会 綾町立綾中学校 井上 透

1 主題設定の理由

これからの中学校教育は、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携しながら、児童・生徒にこれからの時代に必要な資質・能力を育むことが望まれている。そこで、東諸県支会では、教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用し、学校の目指すところを社会と共にしながら「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて連携を推進することが責務であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

社会に開かれた学校を創るために教育課程の在り方を究明する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究計画

本支会は国富町と綾町の小学校5校、中学校4校の計9校で構成されている。これまで、コロナ禍ということもあり、地域と連携した活動を自粛した時期が続いていた。そこで、2年間計画の2年目である本年度は、各校の実態に応じて、地域の人的・物的資源を活用した取組を行い、その後、明確になった課題を整理することから始めた。2年目は、昨年度明らかになった課題を解決するための仮説を基に検証を行うことにした。

(2) 研究の仮説

学校と地域が目標を共有して人的・物的資源を活用した連携を行い、その後の成果や課題を整理することで、社会に開かれた学校を創るために教育課程の在り方が明確になるであろう。

(3) 研究内容

- ① 学校と地域が一体となり、地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進
- ② 成果と課題の整理

(4) 各学校の実践と考察

①「照葉樹林綾マラソン」(綾小・綾中学校)

5年ぶりに復活した

「照葉樹林綾マラソン」

に、綾小・綾中の生徒たち



がランナーやボランティ

アとして参加し、地域への貢献活動を行いました。昨年度までの「照葉樹林綾マラソン テストラン」では、中学生が会場設営、給水、炊き出しなど、50人から60人がボランティアとして参加し、大会を盛り上げていました。この経験を踏まえ、4月から綾町の総合政策課や実行委員の方々と教職員が連携し、本大会に向けた準備を進めてきました。

当初は、児童・生徒の協力が得られるか心配でしたが、綾町の「町民ファーストの運営」というスローガンのもと、多くの児童・生徒が積極的に参加を希望してくれました。特に、綾中学校は大会に全面協力するため、10月27日（日）を授業日とし、生徒・教職員全員で参加できる体制を整えました。

大会当日は、秋晴れの穏やかな天候の下、多くのランナーが参加し、活気に満ち溢れた一日となりました。児童・生徒たちは、早朝から会場設営を手伝い、給水所では、冷たい飲み物を提供し、コース上では手作り応援旗を振って選手たちを励ました。特に、中学生は、昨年の経験を生かし、後輩たちを指導しながら、給水所運営の責任者として活躍し、そのリーダーシップを発揮しました。コ

ース上では、応援の声をかけ合ったりするなど、温かい交流が生まれ、地域全体が一体となった素晴らしい大会となりました。ゴール地点では、完走したランナーの方々と喜びを分かち合いました。地域の方々との温かい交流は、大会をさらに盛り上げました。大会に参加した児童・生徒からは、「地域のために何かできることが嬉しかった」や「多くの人と交流できて楽しかった」といった感想が聞かれました。また、ボランティア活動を通して、協調性や责任感の大切さを学び、自己成長を実感した生徒もいました。今回の経験を活かし、今後も綾小、綾中では地域清掃活動の実施や、地域の高齢者の方々との交流イベントの企画など、具体的な活動計画を立てています。

②「キャリア教育の推進」(本庄中学校)

「心豊かでたくましく、将来をしなやかに生き抜く生徒の育成」は、本校の教育目標です。この目標の具現化に向けて、昨年度からキャリア教育の推進を柱に、総合的な学習の時間を再構築しました。

具体的な取組として、

1学年: テーマ「夢を追うために『知る』」を掲げ、「めざすはくにとみ博士！」をキャッチコピーに、生徒一人ひとりが国富町の魅力ある「人」「もの」「こと」を選び、地域素材を活用した探究活動を行っています。

2学年: テーマ「夢を追うために『広げる』」のもと、修学旅行や職場体験学習と連携した探究活動に取り組んでいます。

3学年: テーマ「夢を追うために『深める』」を掲げ、「2030年の自分」をキャッチコピーに、自己史の作成など、将来を見据えた探究活動を進めています。

これまでに、地元の様々な業種の保護者や社会人の方々から、仕事内容ややりがい、学生時代の経験などについてお話を聞きし



ました。また、美郷町在住の今西猛様を講師に招き、「100年後の未来」を見据えた森づくりへの取組や、これまでの経験、そして今後の夢についてご講演いただきました。

今後、生徒たちは、自身の課題解決に必要な情報を収集し、まとめ、発表する機会を得る予定です。

4 成果と課題の整理

成果

- 児童生徒が、地域のために何かできるとの喜びを経験し、地域貢献の意識が大きく向上した。
- ボランティア活動を通して、生徒たちは協調性、責任感、リーダーシップといった社会性を育み、自己成長を実感することができた。
- 地域貢献活動に積極的に取り組む学校としてのイメージが向上し、地域からの信頼度も高まった
- キャリア教育について改めて研修等を通じて理解を深める場をもつことができ、総合的な学習の時間の内容を再構築する機会となった。

課題

- 一過性のイベントではなく、継続的に活動を行うための仕組み作りを図り、新たな活動へと繋げていくための工夫が必要である。
- 地域清掃や高齢者との交流など、活動内容をより深化させ、地域との繋がりを強化していく必要がある。
- ボランティア活動の効果を測るためにアンケート調査や活動記録の分析を通して、活動の成果を数値化し、改善点を見つける必要がある。
- 3カ年計画の2年目にあたるが、引き続き、総合的な学習の時間の取組内容を精査しながらキャリア教育の理解と充実を図る必要がある。